

山行報告書

日時	2016年 8月21日(日)	天候	晴天
山名	野河内溪谷(第3回 登山学校)		
CL	M井	参加者	Y永(SL)、T田、K崎、O崎、T田 (総勢6名)
(コース)	<p>8:10 駐車場 8:20~13:50 野河内溪谷(沢登り) 14:00 林道 14:30 駐車場</p>		
(コメント)	<p>第3回登山学校として、M井校長の指揮、T田・Y永両講師の指導のもとに実施された沢登りの初心者訓練にO崎、T田(私)の両受講生のほか、K崎さんが参加した。</p> <p>入溪前にM井氏から、沢登りの本来の目的等の説明や「沢の遡行の際、水の中の見えないところも十分に観察すること。」等の注意があり、T田講師を先頭に入溪した。</p> <p>沢に入った時は、沢の冷たさが心地よく感じられたが、直ぐに、寒さが身にしみるようになり、防寒対策をしなかったことを後悔した。</p> <p>途中、足が届かないほど深い釜や滝などの難所が数カ所あったが、「一番深いところを行き、滝は直登」との指示により、全員が泳ぎと直登にチャレンジすることとなった。</p> <p>釜では、先に泳いで渡ったT田講師からザイルを渡してもらい、一人ずつ、8の字結びでザイルをハーネスに結んで安全確保して泳いで渡ったが、胸まで水につかりながら自分の順番を待つ際、体が震えるほど水の冷たさが身にしみた。</p> <p>滝の直登でも、先に登ったT田講師から渡されたザイルとハーネスを8の字結びで連結して確保の上、一人ずつ、水流の多いところを登ることとなった。水に流されたり、足が滑ったりで落下する人が続出したが、それでも、何度もチャレンジし、どうしても直登できないところは、水流を外れて足場を探す等して、最終的には全員が登り切ることができた。私も三点支持を心がけていたものの、何度も足を滑らせて落下してしまい、諦めかけたこともあったが、氣力を振り絞って何度も挑んで登り切ることができた。</p> <p>中程にあった5~6メートルの高い滝では、直登後、水流のない岩壁を利用して懸垂下降訓練を実施した。下降器を使って下降した後は、プルージック結びで安全確保の上、岩壁を登り返した。</p> <p>その後、流れが緩やかなところで昼食をとり、昼食後、しばらく遡行し、時間となったので訓練を終了し、近くの林道を下って帰路についた。(記 T田)</p>		